

新刊紹介

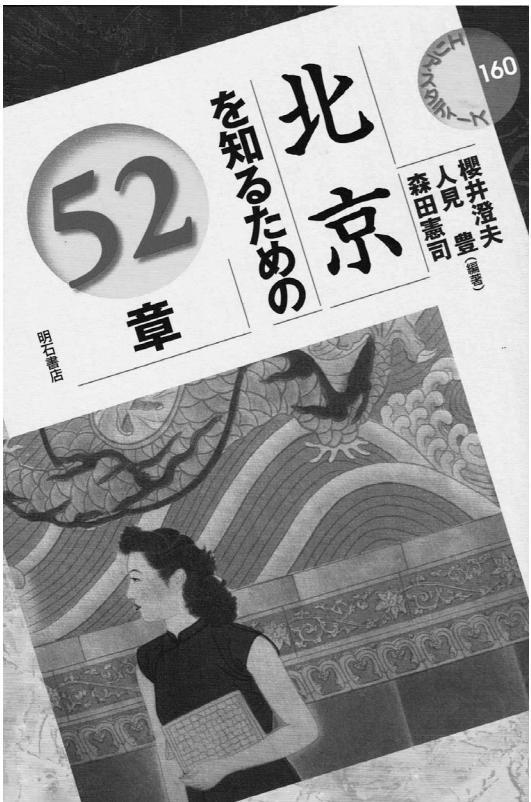
想像を膨らまさば絵巻物のような本

『北京を知るための52章』

櫻井澄夫・人見豊・森田憲司編著

明石書店
2160円(税込)

朝浩之
(会員)



国名または地域名や都市名を書名に含む「エリア・スタディーズ」というシリーズが明石書店から刊行されている。中国関係も多数ラインアップされており、ここ2年内に刊行されたものとしては『現代中国を知るための52章』(第5版) (藤野彰・曾根

康雄編著、2016年12月)、『台湾を知るための60章』(赤松美和子・若松大祐編著、2016年8月)が挙げられる。この両書を比較しながら読むと、中国と台湾の国際的立ち位置の違いを容易につかむことができるのである。いずれも刊行後早い時期に

増刷になっているようだ。

その他、『香港を知るための60章』(吉川雅之・倉田徹編著、2016年3月)、『内モンゴルを知るための60章』(ボルジギン・ブレンサンイン編著/赤坂恒明編集協力、2016年3月)、『中国のムスリムを知るための60章』(中国ムスリム研究会編、2012年8月)、『現代台湾を知るための60章』(第2版) (亞洲奈みづほ著、2012年1月)、『中国の歴史を知るための60章』(並木頼寿・杉山文彦編著、2011年1月)なども版元公式サイトを見ると入手できるとなっている。

本稿では中国関係の中の最新刊『北京を知るための52章』を紹介したい。

クレジットカード会社に勤務し10年にわたって北京に駐在し

た櫻井澄夫。ミュージシャン、ザ・タイガースのドラマー、人見豊。東洋史専攻、奈良大学名誉教授の森田憲司。以上、異色の組み合わせといえる3名を編者に据える。編者も含め、大学、報道、民間企業、公的機関、料理店、京劇などに携わる多彩な30名の執筆者が、写真・図版150点近くを添えて物語る。というと、果たしてどのような書なのかといぶかるとともにならうが、ここは編者に語つてもらおう。「本書は単なる寄せ集めのアンソロジーではなく、北京や中国との編者や執筆者の深い関わりや、本書の作成のためには集まつた集団としての執筆者や支援者の皆さんとの長期にわたる親密な関係があつてこそ実現した著作物である」(あとがき)という自信作なのである。

それではと、本書の面白さの一端に触れてみよう。まず全体的な印象を記すことにする。においにあふれる本だと感じた。ときに料理のにおい、ときに無機物である建造物、本のにおい

